

	<h1 style="font-size: 4em; margin: 0;">会 報</h1> <p style="font-size: 1.2em; margin: 0;">— 新潟県少年自然の家後援会 —</p>	<p style="text-align: center; font-weight: bold;">[第 24 号]</p> <p style="text-align: center;">平成25年 2月 7日</p> <p>事務局 新潟県胎内市乙字大日裏 新潟県少年自然の家内 〒959-2602 TEL0254(46)2224 FAX0254(46)3070</p>
---	--	---



自然体験活動が  
子どもたちの心を育てる  
胎内市長 吉田 和夫

自然体験活動の場として親しまれております「新潟県少年自然の家」も開所から39年を迎え、子どもたちを中心に年間3万人を超える利用者がキャンプ、カヌー体験、創作活動といった様々な活動を満喫しています。

訪れた子どもたちに楽しく、安全に活動してもらうため、施設周辺の環境整備を行っていただいている後援会の皆様をはじめ、地域ボランティアの方々の御支援、御協力に対し心より感謝申し上げます。

近年、子どもたちを取り巻く社会環境は変化してまいりました。情報化が進み、インタ

ーネットやテレビゲームなどバーチャルな世界から得る知識の割合が高くなっています。

しかし、この知識はあくまで仮想的なもので、実際の体験から得られる知識や感動はそれとは比較にならないほど、子どもたちの心に深く刻まれます。

国立青少年教育振興機構報告書によると、自然体験活動をする機会の多い子どもは、道徳観や正義感、自立性や積極性、協調性が身に付いている者が多いとの報告もあります。

「新潟県少年自然の家」は大自然の中で、学校や家庭では得難い体験活動や集団生活を通して、感動や他人への思いやり、命の大切さなどの心を育てる場と考えております。

引き続き子どもたちの心を育む場として活動できますよう、後援会の皆様の御支援を賜りたくお願い申し上げます。

## 自然の家の誇り「松葉かき」

新潟県少年自然の家  
所長 小田 智美



141・・・これは今年度野外炊さんを行った団体の数です。どの炊さんも、大事な始めの炎は松葉から。子どもたちはバケツにいっぱい入れて穴掘りがまに向かいます。炎が小さくなると、また両手で松葉を抱えて、必死の顔で走ります。（走るなキケン！ではありませんが）

「カレーライスおいしかった！」「煙かったけどがんばったよ！」「上手に火をおこすことができた！」子どもたちの野外炊さんの思い出や体験を豊かにしてくれているのは、自然の家の宝物「松葉」です。そして、それを支えてくださっているのが、後援会や乙中、GGRの皆さんが行ってくださっている自然の家の誇り「松葉かき」なのです。本当にありがとうございます。

今年も雪が降る頃には、地面は一面茶色の松葉で覆われました。地面を優しく包んだ松葉は、春にはまた、みんなの手でかき集められ、植物の芽吹きを促し、子どもたちに感動を与えてくれることでしょう。皆さんと一緒に松葉かき。楽しみにしています。どうぞよろしくお願いいたします。

## 松葉かきは赤松を守る

新潟県少年自然の家  
後援会副会長  
荒井浜区長 長野 彰夫



松くい虫の被害が猛威を振っています。荒井浜共有地の松は、先人達が大切に育ててきた松です。この大切な松が赤くなるのを見ると、先人達に申し訳ない気がします。

昨年7月、荒井浜森林公園の松の元気がないので、新潟県森林研究所の方に見てもらいました。その調査結果は「松の落葉等の蓄積による、土壌の富栄養化が原因と思われる」との回答でした。松はやせ地を好み、今の状態は土壌が肥沃化しているのだそうです。たしかに盛んに松葉かきをしていた6～70年前の荒井浜には、松くい虫被害などがなかったことから、この話はうなずけます。

少年自然の家は、毎春、私たち後援会員とグラウンドゴルフ愛好会、それに乙中学校生徒で松葉かきをしています。環境整備のためにと考えていましたが、樹齢100年を超す赤松林を松くい虫から守るため、これからも、この行事をしていこうと思っています。

# 今年度も多くの方々からご奉仕いただきました

## 松 葉 か き



- 平成24年 4 月 8 日 松葉等集積作業・・・胎内 G G R
- 平成24年 4 月 12 日 松葉等集積作業・・・乙中学校全校生徒
- 平成24年 4 月 14 日 松葉等運搬処理作業  
3 地区から、以下のとおり参加をいただきました。  
ありがとうございました。

(敬称略・順不同)

## ・ 乙地区 (17名)

伊藤 謙豪	田村 文夫	川崎 幸治
○南波 精咲	○小野 徹平	○斎藤 広司
時田 政義	○南波 幸男	◇天木 義人
○室本 幸治	○南波 快和	高橋 明均
渡辺 郁夫	○川崎 吉郎	川崎
○諸本 三也	遠山 裕一	

## ・ 桃崎浜地区 (16名)

伊藤 貞夫	本田 勝夫	菅 定雄
小島 清	小嶋 栄	長谷川 栄子
小池 文子	小林 トシエ	小島 捨次男
小島 弘美	小島 智浩	小池 幸男
小島 三一	小池 登喜子	○大谷 勉
小嶋 有美子		

## ・ 荒井浜地区 (12名)

長野 彰夫	長野 正夫	斎藤 工
八幡 弘	佐藤 実	野澤 修
阿部 吉一	阿部 正生	野沢 源治
佐々木 徹	長野 互	金子 祥次郎

## ・ その他協力者 (3名)

阿部 里枝	石栗美津子	糸魚川 ツヨ
-------	-------	--------

※ ○軽トラック提供者、◇小型ショベル提供者



## テント設置

- 平成24年 4 月 27 日  
2 地区から、以下のとおり参加をいただきました。  
ありがとうございました。

(敬称略・順不同)

## ・ 乙地区 (2名)

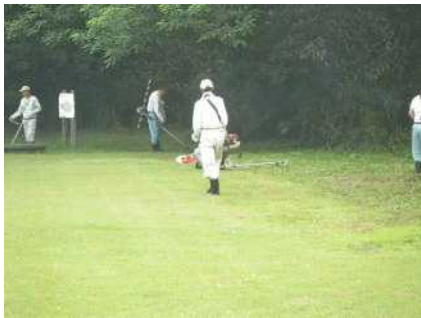
田村 文夫	渡辺 郁夫
-------	-------

## ・ 桃崎浜地区 (2名)

本田 勝夫	菅 定雄
-------	------







## 草刈り

### □ 平成24年 6月27日

1地区から、以下のとおり参加をいただきました。  
ありがとうございました。

(敬称略・順不同)

#### ・乙地区 (13名)

伊藤 謙豪	小野 敬平	天木 義人
南波 快和	川崎 均	川崎 吉郎
遠山 裕一	斎藤 広司	渡辺 郁夫
室本 幸治	南波 幸男	高橋 明
田村 文夫		



### □ 平成24年 7月1日

2地区から、以下のとおり参加をいただきました。  
ありがとうございました。

(敬称略・順不同)

#### ・桃崎浜地区 (10名)

伊藤 貞夫	藤木 繁一	宮川 芳男
三浦 昭男	本田 勝夫	小林 鋼一
三浦 春男	小林 制治	菅 定雄
本間 吉之祐		



#### ・荒井浜地区 (8名)

長野 彰夫	八幡 弘	山田 進
阿部 吉一	佐藤 実	阿部 正生
佐々木 徹	長野 正夫	



平成24年度

## 後援会活動事業報告

平成24年  
4月1日

後援会発足

会長	伊藤 謙豪
副会長	伊藤 貞夫
副会長	長野 彰夫

4月14日 (松葉かき・計56名)

乙地区	17名
桃崎浜地区	16名
荒井浜地区	12名
その他協力者	3名
当所職員	8名

4月27日 (テント設置・計12名)

乙地区	2名
桃崎浜地区	2名
当所職員	8名

6月27日 (草刈り・計15名)

乙地区	13名
当所職員	2名

7月1日 (草刈り・計20名)

桃崎浜地区	10名
荒井浜地区	8名
当所職員	2名

平成25年

2月4日 (後援会会計監査)  
2月7日 (後援会総会・会報24号発行)

## 緑のカーテンで省エネ対策の取り組みについて



【丘わかめ】



【ゴーヤ】

省エネ対策として、集会室の窓の外に緑のカーテンを作りました。

遮光効果、葉の蒸散による冷却効果を期待し、植物の苗（丘わかめ・ゴーヤ）、プランター、ネット、ロープ、土（肥料）を後援会より購入し取り組みました。

初めての試みのため、つるの誘引や管理（水、肥料）面のタイミングが悪かったのか結果は、あまり良いとは言えませんが来年度につなげることが出来ると思います。

## 平成25年度 後援会事業計画（案）

- |                  |  |  |   |
|------------------|--|--|---|
| <p>4 その他（未定）</p> | <p>3 広報紙の発行</p> <p>○ 後援会「会報」印刷・発行<br/>全戸配布</p> | <p>2 遊歩道等の整備</p> <p>○ 雑木伐採・草刈り</p> <p>○ 遊歩道の補修</p> <p>○ 6月・7月<br/>奉仕作業<br/>「草刈り」</p> | <p>1 松林内の整備</p> <p>○ 松葉の集積</p> <p>○ 枯れ枝の搬出</p> <p>○ 4月13日<br/>奉仕作業<br/>「松葉かき」</p> |
|------------------|--|--|---|